

米子弁で語ろう ふるさとの民話

～米子弁の意味や使い方を本でくわしく調べよう～

3年 総合的な学習の時間
「米子弁で語ろう ふるさとの民話」
資料の活用(郷土資料)

ねらい

- 本で米子弁の意味や使い方を調べ、情報カードに記録することができる。
- 米子に伝わる民話をあらすじにまとめることができる。

学 習 展 開

- ① 米子弁の語りを聞き、お世話になった地域の方に米子弁でふるさとの民話を語るという学習のゴールイメージを持つ。
- ② 資料を活用して、米子弁の意味や使い方を調べる。
- ③ 調べた米子弁のよさを劇にして発表する。
- ④ 地域に伝わる民話をあらすじにまとめ、米子弁に直す。
- ⑤ 地域の人にふるさとの民話を米子弁で語る。



「もくじ」と「さくいん」を使って、
方言辞典で米子弁を調べる

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書と司書教諭は、調べ学習の意欲を高めるよう、米子弁での会話を演じる。
- 司書教諭は、目次と索引を使って調べることを確認する。また、情報カードに記録する良さと記入の仕方を説明する。
- 学校司書と司書教諭は、調べ活動の時 T2 として支援する。

☆指導のポイント

- ◆ 目次と索引を使って調べたいことを探すことを押さえる。
- ◆ 調べたことを情報カードに引用するとき、出典を書くことを押さえる。

資料

「米子の民話散歩」(今井書店)、「米子ことば 訛りの分析」、「米子弁講座」(今井出版)、「鳥取県方言辞典」(富士書店)、「よなご弁」(今井書店)、「読みがたり鳥取のむかし話」(日本標準)、「中海の民話」(立花書院) ほか